

平成21年度事業報告  
平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

1. 会員状況(平成22年3月31日現在)

名誉会員	16名		平成21年3月31日	より2名増
正会員	1,046名		〃	より39名減
学生会員	15名		〃	より2名増
団体会員	141社	141口	〃	より4社1口増
団体会員 A	0社	0口		
団体会員 B	16社	16口		
団体会員 C	125社	125口		
賛助会員	112社	125口	〃	より8社21口減

2. 調査・研究の実施

- (1)研究部会、分科会を開催し、その活動を通じて調査研究を進めるとともに、その成果報告会を開催して会員等に周知した。また、関連学会・研究会との騒音・振動に関する情報交換を行い、会員活動の拡大を図った。
- (2)騒音・振動関係の日本工業規格(JIS)の見直し・原案作成および国際規格(ISO、IEC)の審議に協力した。
- (3)従来から実施している受託調査研究業務については、騒音・振動制御に関する当学会として相応しい事業を受託し、騒音・振動技術の発展に努めた。

3. 会誌、技術報告、学術書の刊行

- (1)「騒音制御」33巻2号～34巻1号の6冊を隔月に発行し会員に配布した。その中で、会員のニーズに応じた特集記事を企画し誌面の充実を図るとともに、学会HPにカラー図表を掲載する等のサービスも積極的に行った。また、記事投稿の促進と執筆者への便宜、編集の効率化について検討するとともに、「騒音制御」の電子化への取り組みを継続し、Journal@rchive((独)科学技術振興機構)を通じて「騒音制御」をWeb上に公開した。
- (2)「騒音用語事典」、「お話シリーズ(仮題)」の出版に向けて編集作業を継続して進めるとともに、学会としての出版活動の一層の充実を図った。

4. 研究発表会等の開催

(1)平成21(2009)年春季研究発表会の開催

平成21年4月23日に東京工業大学百年記念館において春季研究発表会を開催し、講演論文集を刊行した。

セッション

- ① 風力発電施設から発生する騒音について
- ② 床衝撃音の測定・評価と性能の表記
- ③ 環境振動の測定・評価・予測
- ④ 外部騒音の測定・評価と遮音設計

## (2)平成21(2009)年秋季研究発表会の開催

平成21年9月10日～11日に埼玉大学工学部において秋季研究発表会を開催し、講演論文集を刊行した。

## (3)分科会の開催

新たに開設した高周波音検討分科会を含め、その研究を推進することを目的に各分科会を開催した。

## 5. 講演会、講習会、展示会の実施

### (1)特別講演会等の開催

平成21年5月に開催する平成21年度通常総会において、特別講演会を開催した。また、平成21年9月に開催する秋季研究発表会において、特別講演、シンポジウム及び展示会を行った。

### (2)技術講習会等の開催

技術講習会を年4回開催し、騒音・振動技術の普及・向上に務めた。

## 6. 国内外の学会・協会との交流

(1)IEC-TC/29総会の開催を共催した。

(2)INTER-NOISE 2011の日本開催に向けて準備作業を行った。

(3)I-INCE 加盟団体としてその活動に協力すると同時に、ICA、WESPAC、INCE/USA等と情報交換を行った。

## 7. 業績の表彰、認定技士の資格認定

(1)学会の選奨制度を効果的に運用し、会員による騒音・振動技術の推進と普及を促し、社会への貢献を図ため、守田栄論文賞、研究功績賞、環境デザイン賞、研究奨励賞の贈呈を行った。

(2)資格制度に基づき社団法人日本騒音制御工学会認定技士の資格認定を行うとともに、活動の強化を図った。

## 8. 新公益法人制度への対応

平成20年12月1日から新公益法人制度がスタートしたことに伴い、本学会として今後、公益法人認定申請へ向けて準備を行った。

## 9. 選挙制度の改革

「役員及び評議員選出」規則の見直しを行い、新たに「学会貢献者」を設け学会貢献者は選挙を経ることなく、理事評議員となりその豊かな経験を発揮できる制度とした。

## 10. その他

(1)会員の拡充に努め、特に若年研究者の入会を促すために努力した。

(2)ホームページの充実と整備を継続的に行い、学会活動の基盤強化と会員に対する学会情報等の素早い伝達と周知を図った。